

「公共」とは何か－開かれた対話的空間をめざして－

山口源治郎(東京学芸大学)

○はじめに

- 「必要なのは対話ではなく圧力だ」(国連総会における安倍首相の演説より)
- 「戦争・暴力の反対語は、平和ではなく対話です」(暉峻淑子)

○変貌する社会空間

[人間関係]

- ・過剰化と無縁化
 - いじめと友だち地獄(土井隆義) 「空気」と強迫
 - 若者の「無縁化」(宮本みち子)、高齢者の孤立・無縁化

[言論空間]

- ・「ポスト真実」の時代
 - それが真実かどうかは問題ではない
 - 自己にとって都合のよい心地よい言説しか受入れない
 - 「虚偽(フェイク)」が社会を動かす時代
 - ・一方的攻撃的な言論空間
 - ヘイトスピーチ, 「炎上」
 - 「ポピュリズム」型政治家の言論行動(安倍, 橋下など)
- 変容の背景としての「SNS社会」

○市場化する行政空間と「公共空間」の縮小

[公共サービスの転換]

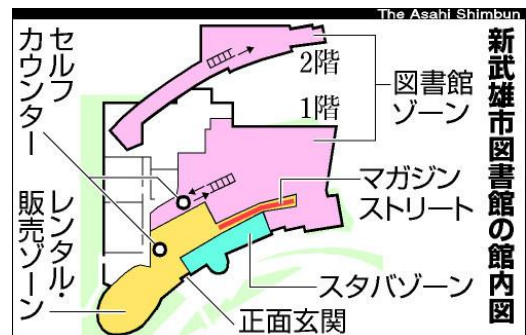
- 「官から民へ」 → 公的領域から私的領域(市場)での解決へ
- 教育・文化, 福祉, 医療の市場化
- 「自己責任」論の広がり

[図書館空間の市場化－「ツタヤ図書館」が示すもの－]

- 「市民価値」(樋渡啓祐)ではなく「企業価値」の優先
- 営業部門優先のフロア
- 図書館資料の「アイテム」化
- 図書館員の店員化と利用者の消費者化
- 歪んだ資料選択
- 自治体幹部と企業の癒着

[公共サービス(官製市場)の市場開放(ビジネスチャンス化)]

企業の食い物にされる公共サービス (立川市の場合)



	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
管理運営委託料	0	46,188,000	55,375,000	55,375,000	166,395,000	171,845,484	270,361,484
1館平均委託料	0	23,094,000	27,687,500	27,687,500	33,279,000	34,369,097	33,795,186
指定管理導入館	0	2館	2館	2館	5館	5館	8館
『立川市立図書館事業報告』各年次							
『立川市決算調書』各年次							
単位は千円							

○対話的空間=市民的公共性の構築

[多義的な「公共性」]

齋藤純一氏の整理 (『公共性』岩波書店, 2000年)

- ・ 国家に関する公的な(official)
→ 「公共の福祉」論で, 国家の施策を優先する「公益」の論理に使われた時代も
- ・ すべての人々に共通する(common)
→ 共通でないものへの抑圧を含む
- ・ だれにでも開かれている(open)
「椅子は空いたままだが, 席は設けられている」(H.アーレント)

[対話的空間とは]

- ・ 開かれた言論・思想の場(だれもが参加できる.だれもが表現できる)
- ・ 多様性・複数性(思想・表現, 性, 年齢, 民族, 言語・文化など)
- ・ 応答性(聞いてもらえる空間)
- ・ 自治性(みんなで決める)
- ・ 小規模性と共同性(小さな対話集団がたくさん存在し, それらが共同する関係)

○コモンズ(社会的共通資本)としての地域の再生

[社会的共通資本(コモンズ)の思想]

「社会的共通資本とは, 一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が, 豊かな経済を営み, 優れた文化を展開し, 人間的に魅力ある社会を持続的, 安定的に維持することを可能にするような社会装置を意味する。社会的共通資本は, 一人ひとりの人間的尊厳を守り, 魂の自立を支え, 市民の基本的権利を最大限に維持するために, 不可欠な役割を果たすものである。」

「社会的共通資本は決して国家の統治機構の一部として官僚的に管理されたり, 利潤追求の対象として市場的な条件によって左右されてはならない。」

(宇沢弘文『社会的共通資本』(岩波書店, 2000年)より)

- ・ 自然環境(大気, 水, 森林, 河川, 湖沼, 海洋, 沿岸湿地帯, 土壌など)
- ・ 社会的インフラストラクチャー(道路, 交通機関, ライフラインなど)
- ・ 制度資本(教育, 医療, 金融, 司法, 行政など)

[コモンズ(社会的共通資本)としての地域の再生]

- ・ 財政危機の欺瞞 財政危機の裏側で繰り返される浪費(オリンピック, 新幹線など巨大公共事業, 原発事業など)
- ・ 「地方消滅」の脅し 大都市の過剰集積, 過密は問題にしない
→ 地方お荷物論
- ・ 持続可能な地域の再生
人口減少論と「適疎」論(山崎亮)の魅力
市民生活にとって公共性の高い, 不可欠な共同事業は何か
税の負担と配分と市民的合意の形成 → 対話的空間の創出